

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2001-516583 (P2001-516583A)

【公表日】平成 13 年 10 月 2 日 (2001.10.2)

【出願番号】特願 2000-511872 (P2000-511872)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 39/155 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

A 6 1 P 31/20 (2006.01)

C 0 7 K 14/135 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 39/155

A 6 1 K 48/00

A 6 1 P 31/20

C 0 7 K 14/135

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/00 A

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 9 月 5 日 (2005.9.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 免疫原性を保持しかつ免疫原性の組成物もしくはワクチン中に組み込まれそして脊椎動物に投与される場合に R S V の脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発しない、R S V の改変 G タンパク質もしくはポリペプチド。

【請求項 2】 高められた疾患が異型性肺炎である、請求項 1 に記載の改変 G タンパク質もしくはポリペプチド。

【請求項 3】 異型性肺炎が肺の好酸球増多症である、請求項 2 に記載の改変 G タンパク質もしくはポリペプチド。

【請求項 4】 改変がアミノ酸 184 からアミノ酸 198 までの領域中にある、請求項 1 に記載の改変 G タンパク質もしくはポリペプチド。

【請求項 5】 改変が、アミノ酸配列アラニン - イソロイシン - システイン - リシン - アルギニン - イソロイシン - プロリン - アスパラギン - リシン - リシン - プロリン - グリシン - リシン - リシン - トレオニンを有する領域もしくはその生物学的同等物中にある、請求項 1 に記載の改変 G タンパク質もしくはポリペプチド。

【請求項 6】 改変が、野生型 G タンパク質に関して改変 G タンパク質もしくはポリ

ペプチドによる IL - 5 分泌に対するプライミングの阻害をもたらす、請求項 1 に記載の改変 G タンパク質もしくはポリペプチド。

【請求項 7】 RSV の改変 G タンパク質もしくはポリペプチドをコードする核酸分子であって、前記改変 G タンパク質もしくはポリペプチドが、免疫原性を保持しかつ免疫原性の組成物もしくはワクチン中に組み込まれそして脊椎動物に投与される場合に RSV の脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発しない、核酸分子。

【請求項 8】 改変がアミノ酸 184 からアミノ酸 198 までの領域をコードする核酸分子の領域中にある、請求項 7 に記載の核酸分子。

【請求項 9】 改変が、アミノ酸配列アラニン - イソロイシン - システイン - リシン - アルギニン - イソロイシン - プロリン - アスパラギン - リシン - リシン - プロリン - グリシン - リシン - リシン - レオニンを含む領域もしくはその生物学的同等物中にある、請求項 7 に記載の核酸分子。

【請求項 10】 調節配列に操作可能に連結される請求項 7 に記載の核酸分子を含んで成る核酸構築物。

【請求項 11】 a) RSV の改変 G タンパク質もしくはポリペプチドをコードする核酸分子であって、前記改変 G タンパク質もしくはポリペプチドが、免疫原性を保持しかつ免疫原性の組成物もしくはワクチン中に組み込まれそして脊椎動物に投与される場合に RSV の脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発しない核酸分子；

b) RSV の F タンパク質の全部もしくは免疫原性の部分をコードする核酸分子；ならびに

c) (a) および (b) 双方に操作可能に連結される調節配列、を含んで成る、キメラ核酸構築物。

【請求項 12】 請求項 10 に記載の核酸構築物を含んで成る組換え宿主細胞。

【請求項 13】 請求項 11 に記載の核酸構築物を含んで成る組換え宿主細胞。

【請求項 14】 生理学的に許容できる媒体、および、免疫原性を保持しかつ免疫原性の組成物もしくはワクチン中に組み込まれそして脊椎動物に投与される場合に RSV の脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発しない、RSV の改変 G タンパク質もしくはポリペプチドを含んで成る、免疫原性組成物。

【請求項 15】 免疫原性組成物が、野生型 G タンパク質を含んで成る免疫原性組成物に関して IL - 5 分泌に対するプライミングの阻害をもたらす、請求項 14 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 16】 改変が、アミノ酸 184 からアミノ酸 198 までの領域中にある、請求項 14 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 17】 生理学的に許容できる媒体、RSV の F タンパク質の全部もしくは一部分、および、免疫原性を保持しかつ免疫原性の組成物もしくはワクチン中に組み込まれそして脊椎動物に投与される場合に RSV の脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発しない、RSV の改変 G タンパク質もしくはポリペプチドを含んで成る、免疫原性組成物。

【請求項 18】 免疫原性組成物が、野生型 G タンパク質に関して IL - 5 分泌に対するプライミングの阻害をもたらす、請求項 17 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 19】 改変が、アミノ酸 184 からアミノ酸 198 までの領域中にある、請求項 17 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 20】 改変が、アミノ酸配列アラニン - イソロイシン - システイン - リシン - アルギニン - イソロイシン - プロリン - アスパラギン - リシン - リシン - プロリン - グリシン - リシン - リシン - レオニンを含む領域もしくはその生物学的同等物中にある、請求項 17 に記載の免疫原性組成物。

【請求項 21】 免疫原性を保持しかつワクチン中に組み込まれそして脊椎動物に投与される場合に RSV の脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発することなく保護を提供する、RSV の改変 G タンパク質もしくはポリペプチドの免疫学的に有効な量を含んで成る、ワクチン組成物。

【請求項 2 2】 改変が、アミノ酸 1 8 4 からアミノ酸 1 9 8 までの領域中にある、請求項 2 1 に記載のワクチン組成物。

【請求項 2 3】 改変が、アミノ酸配列アラニン - イソロイシン - システイン - リシン - アルギニン - イソロイシン - プロリン - アスパラギン - リシン - リシン - プロリン - グリシン - リシン - リシン - トレオニンを有する領域もしくはその生物学的同等物中にある、請求項 2 2 に記載のワクチン組成物。

【請求項 2 4】 R S V の F タンパク質の全部もしくは一部分の免疫学的に有効な量、および、免疫原性を保持しかつワクチン中に組み込まれそして脊椎動物に投与される場合に R S V での脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発することなく保護を提供する、R S V の改変 G タンパク質もしくはポリペプチドの免疫学的に有効な量を含んで成る、ワクチン組成物。

【請求項 2 5】 改変が、アミノ酸 1 8 4 からアミノ酸 1 9 8 までの領域中にある、請求項 2 4 に記載のワクチン組成物。

【請求項 2 6】 改変が、アミノ酸配列アラニン - イソロイシン - システイン - リシン - アルギニン - イソロイシン - プロリン - アスパラギン - リシン - リシン - プロリン - グリシン - リシン - リシン - トレオニンを有する領域もしくはその生物学的同等物中にある、請求項 2 5 に記載のワクチン組成物。

【請求項 2 7】 アジュバントをさらに含んで成る、請求項 2 1 に記載のワクチン組成物。

【請求項 2 8】 アジュバントをさらに含んで成る、請求項 2 4 に記載のワクチン組成物。

【請求項 2 9】 ワクチンのような医薬の製造のための、請求項 1 に記載の改変 G タンパク質もしくはポリペプチドの使用法。

【請求項 3 0】 生理学的に許容できるベヒクルおよび R S V の改変 G タンパク質もしくはポリペプチドをコードする核酸分子の有効量を含んで成るワクチンであって、前記改変 G タンパク質もしくはポリペプチドが、免疫原性を保持しかつワクチン中に組み込まれそして脊椎動物に投与される場合に R S V での脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発することなく保護を提供するワクチン。

【請求項 3 1】 トランスフェクション促進剤をさらに含んで成る、請求項 3 0 に記載のワクチン。

【請求項 3 2】 脊椎動物への投与に際して、改変 G タンパク質もしくはポリペプチドが発現され、そして免疫原性であるが、しかし R S V での脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発しないように、R S V の改変 G タンパク質もしくはポリペプチドをコードする核酸配列を異種核酸区分としてその内に挿入した生存する弱毒化された病原体の免疫学的に有効な量を含んで成る、ワクチン組成物。

【請求項 3 3】 生存する弱毒化された病原体が弱毒化された細菌である、請求項 3 2 に記載のワクチン組成物。

【請求項 3 4】 生存する弱毒化された細菌がサルモネラ属 (*Salmonella*) である、請求項 3 3 に記載のワクチン組成物。

【請求項 3 5】 生存する弱毒化された病原体が弱毒化されたウイルスである、請求項 3 2 に記載のワクチン組成物。

【請求項 3 6】 生存する弱毒化されたウイルスが、弱毒化ベネズエラウマ脳炎ウイルスである、請求項 3 5 に記載のワクチン組成物。

【請求項 3 7】 免疫原性を保持しかつ免疫原性の組成物もしくはワクチン中に組み込まれそして脊椎動物に投与される場合に R S V での脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発しない、R S V の改変 G タンパク質もしくはポリペプチドであって、前記タンパク質もしくはポリペプチドが配列番号 3 2 および配列番号 3 3 から成る群から選択されるアミノ酸配列を有する、タンパク質もしくはポリペプチド。

【請求項 3 8】 生理学的に許容できる媒体、および、免疫原性を保持しかつ免疫原性の組成物もしくはワクチン中に組み込まれそして脊椎動物に投与される場合に R S V での

の脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発しない、R S Vの改変 G タンパク質もしくはポリペプチドを含んで成る免疫原性組成物であって、前記タンパク質もしくはポリペプチドが配列番号 3 2 および配列番号 3 3 から成る群から選択されるアミノ酸配列を有する組成物。

【請求項 3 9】 免疫原性を保持しかつワクチン中に組み込まれそして脊椎動物に投与される場合に R S Vでの脊椎動物のその後の感染に際して高められた疾患を誘発することなく保護を提供する、R S Vの改変 G タンパク質もしくはポリペプチドの免疫学的に有効な量を含んで成るワクチン組成物であって、前記タンパク質もしくはポリペプチドが配列番号 3 2 および配列番号 3 3 から成る群から選択されるアミノ酸配列を有する組成物。